

成育だより

NCCHD
News Letter
2026 Spring

Vol.46

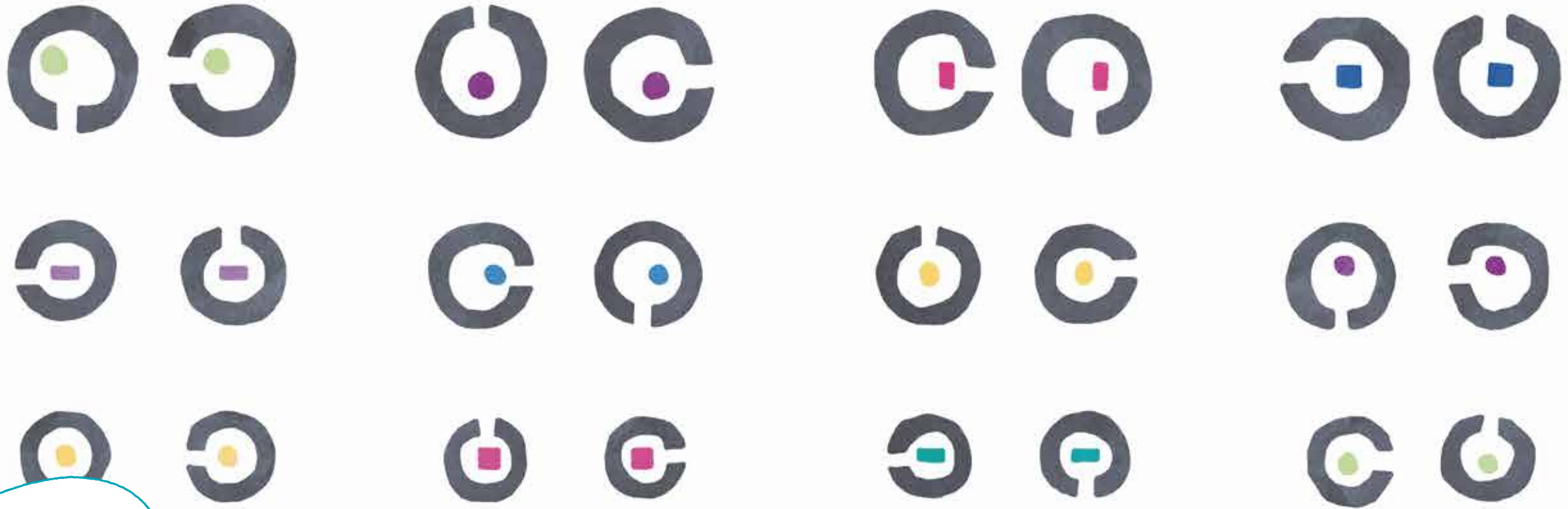


特集
こども
もの
目

National Center for Child Health and Development

<https://www.ncchd.go.jp>

ICWH イベント報告・ロゴ決定・コラム / 小児慢性特定疾病情報室 / 臨床研究センター
専門職のご紹介(視能訓練士/ファンドレイジング室) / ホスビタル・ファシリテッドッグ® マサ
臓器移植1,000例の歩み / 新任のご挨拶 / Information



デジタルデバイスの
子どもの目への影響は？

スマートフォンやタブレットなどのデジタルデバイスは、その利便さで、私たちの生活を大きく変化させてきました。一方で、デジタルデバイスの普及のスピードに比べると、私たちの健康への影響については、まだ十分に解明されていないことも多く、研究が続けられています。しかし、成長や発達の途中にある子どもでは、目に何らかの影響があることが分かってきました。

その一つが、近視です。もともと、読書や勉強などで近くを見る作業が多かったり、作業する距離が30cm未満と短かったりすると、近視になりやすいことが知られていました。最近ではデジタルデバイスを長時間使用することも、近視になりやすくなる原因の一つであることが分かってきました。近視になると、眼鏡やコンタクトレンズが必要になります。また、近視が強くなると、将来、網膜の病気や緑内障など、目の病気にかかるリスクが高くなることもあるため、注意が必要です。

二つ目は、目が内側に寄ってしまう「内斜視」や、ものが二つに見える「複視」です。これまでに、スマートフォン等の長時間使用が関係していると考えられる内斜視が世界各地から報告され、日本では斜視を専門とする医師の共同研究が行われました。内斜視になった場合でも、早い段階や症状が軽い場合には、デジタルデバイスの使用時間を減らすことで改善することがあります。しかし、子どもは症状を自覚しにくいいため、気付かないうちに状態が悪化して、斜視手術などの治療が必要になることもあります。そのほか、ドライアイや眼精疲労、光過敏性（まぶしさを強く感じる症状）や目のかすみなど、これまで大人に多いと考えられてきた症状が、子どもでも報告されるようになってきています。

このような目のトラブルを防ぐためには、デジタルデバイスの使い方を見直すことが重要です。お子さんの目の健康を守るために、家庭で使用ルールを決め、適切に使っていきましょう。

Tomoyo Yoshida
吉田 朋世

小児外科系専門診療部
眼科
子どもの頃の夢：看護師



手に持っているのは「テラーアキュイティカード」。乳幼児など言葉で答えられない人に対する、視力検査用のカードです。

おしえて！先生！

Q1.

デバイスの大きさで、
目への影響は変わるの？

A1. 画面が小さいデバイスほど、目と画面の距離が近くなりやすく、近視が進みやすかったり、目の疲れ（眼精疲労）が起こりやすいことが分かっています。必ずしも大きな画面なら安全というわけではありませんが、できるだけ画面の大きいデバイスを選び、適切な距離を保つようにしましょう。



Q2.

ブルーライトカット眼鏡ってどうなの？

A2. ブルーライトカット眼鏡を子どもにかけさせるとよいという根拠はありません。ブルーライトは太陽の光にも含まれており、体内時計や心身の発達に関わる大切な光でもあります。そのため、眼鏡でブルーライトをカットすることよりも、夕方以降はスマートフォンやタブレットの使用を控えたり、使う時間を短くするといった工夫の方が、より効果的です。

眼科について

乳幼児からの目の病気を対象とする小児専門の診療科です。専門医と視能訓練士が連携し、検査や治療、訓練などを行います。未熟児や先天性疾患など全身疾患に伴う目の症状にも対応し、院内の診療科と連携して診療にあたっています。

国立成育医療研究センター 眼科

<https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/geka/ganka.html>



デジタルデバイスから 目を守るための対策

目を守るためには、日ごろからのちょっとした心掛けが大切です。ご家族皆さんで取り組んでいきましょう。

長時間 使用しない



1歳以下ではなるべく使用せず、4歳以下では1日1時間以内、できるだけ短時間にしましょう。5歳以上でも、娯楽目的の使用は2時間以内にとどめることが大切です。

明るすぎず、 暗すぎない 環境で使う



直射日光や照明が画面に当たると反射して目が疲れやすくなります。カーテンを閉めたり、反射防止フィルムを使う工夫をしましょう。

20-20-20 ルール



20分に1回は休憩を入れ、20秒ほど20フィート（約6m）先の遠くを見るなどして、目を休ませましょう。

よい姿勢で 使う



画面と目の距離は30cm以上離し、寝転がらず、座った姿勢で使いましょう。

屋外の 活動時間を 取り入れる



屋外で過ごす時間が長いほど、近視の進行を抑えられることが分かっています。熱中症や日焼けに気をつけながら、外で体を動かす時間を意識して増やしましょう。



ICWHのロゴは、生命の象徴である「花」をモチーフとしています。4枚の花びらでWomanの「W」を形成し、ランダムに配置することで一人一人の個性と生命力を表現。それを支える枝は、そっと包み込む「手」をイメージしたフォルムです。花のコ랄ピンクは、愛情や優しさ、人とのつながりを意味し、枝のグリーンは、健康や安心、包容力を象徴しています。



国立成育医療研究センター
女性の健康総合センター
Integrated Center for Women's Health

ICWHのロゴを制作した林規章さんに、
どんなところを大事にロゴ制作を進めたのかをお聞きしました。



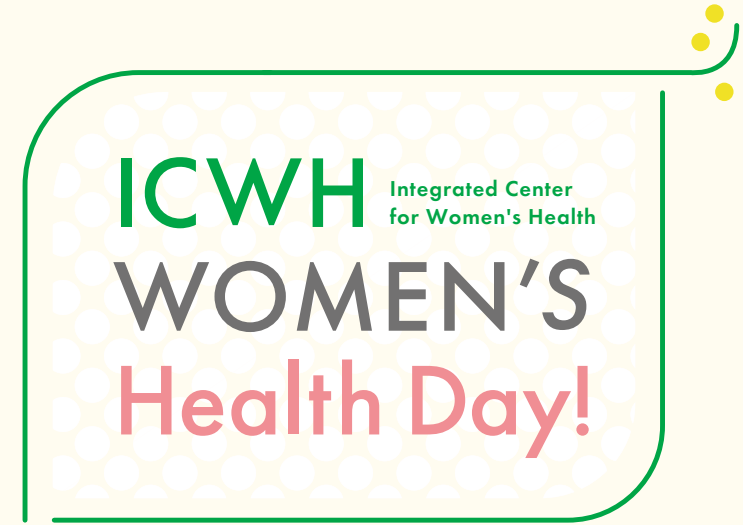
アートディレクター
グラフィックデザイナー
林 規章さん

女子美術大学
女子美術大学大学院 教授
AGI(国際グラフィック連盟)会員
(国際的デザイナーが所属する団体)

デザインを進めていく上で、大切にしていることが何点かあります。その一つが、「思いの共有」です。「女性の健康総合センター」のフィロソフィーが、見る側と共有出来るポイントをいくつか探していく作業から始まります。それは、机上における神話のような話ではなく、各々が持つリアリティーであり、より深度ある現場での出来事と、その背景にストーリーを感じて貰える「共有出来る」これからの「日記」のような物なのかもしれません。その各々が持つストーリーは必ずしも完全一致するということではなく、緩やかにつながり、満ちていく、最大公約数のような「しるし」だと思いました。

命を預かる現場にとって生命の象徴である「花」をモチーフに考えました。その花弁は、命を形成する「営み」「行い」「出来事」など日常当たり前におこっている、当たり前ではない奇跡をWomanの「W」に託し、その命が生命力を持ち豊かに舞う姿を象徴的に表しました。根幹にあるグリーンの幹は、その想いを支える「手」を想起させ、自由に豊かにそして、健やかさを願う象徴として、構える造形となっています。人は決して強くありません。しかし、手を取り合い、想いやる事によって、思いもよらない力が湧いてくるはず。「女性の健康総合センター」が、皆さまと寄り添い進んでいける事を、この象徴的なロゴに託しました。

1964年岐阜県生まれ。名古屋芸術大学卒業後、花王株式会社 作成部 グラフィックデザイナー、アートディレクターを経て、HAYASHI DESIGN主宰。『ブルーノ・ムナリーの本たち』(BNN新社高等学校教科書『美術1』光村図書掲載)、『デザインあ みるほん』(金の星社NHK)のブックデザインなど。日本のグラフィックデザイン界で最も権威ある賞、第27回 亀倉雄策賞 受賞。他、ADC賞、TDC賞、THE ONESHOW DESIGN Gold Pencil(New York)など国内外で、世界的な評価を得ている。



女性の健康総合センター(ICWH)の国際女性デーに合わせた初めてのイベント「ICWH Women's Health Day」が、3月8日に開催されました。

第一部では、「みんなで知ろう更年期！」をテーマにメディアでもご活躍の産婦人科医・高尾美穂先生が登場。更年期とは何か、その対処法、また更年期と家族との関係について、時にユーモアを交えながら軽妙な語り口でお話しくださいました。

また、第二部では「妊娠と葉情報センター」開設20周年の講演とトークショーも行われ、妊娠前から授乳中における薬について分かりやすく解説しました。その他、女性の健康に関わる製品を展示するブースもあり、見て、触って、知ることが出来るイベントとなりました。

ICWHでは、こういったイベントを今後も続けていきたいと思っておりますので、皆さまのご参加をお待ちしています。



目の不調と漢方

目の不調は、現代人にとって身近な悩みです。スマートフォンやパソコンの使用が増え、目の疲れや乾きを感じる方も多いのではないのでしょうか。

漢方では、目だけを局所的に見るのではなく、「全身の状態が目に表れている」と考えます。目の乾きやかすみ、疲れやすさは、加齢だけでなく、体力の低下や、血(けつ)や水(すい)の巡りの悪さと関係していることが少なくありません。

さらに漢方でいう「腎(じん)」は**生命力の源**とされ、目の働きとも深く関係しています。腎の力が低下すると、目のかすみや見えにくさ、疲れやすさとして表れやすくなります。

こうした腎の働きを整えるために用いられるのが、漢方薬です。漢方では、この腎の働きを補い、体全体のバランスを整えることで目の不調にアプローチします。代表的な処方の一つに、杞菊地黄丸(こぎくじおうがん)があります。これは、腎を補う六味丸(ろくみがん)に枸杞子(こし)と菊花(ぎくか)を加えた処方です。目の乾

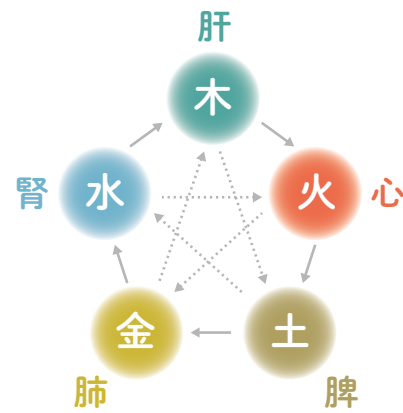
燥やかすみ、充血などに用いられます。中高年の腎の衰えに伴う目の不調に使われます。

疲れ目や眼精疲労が強い場合には、血行を整える当帰芍薬散(とうきしゃくやくさん)や桂枝茯苓丸(けいしぶくりょうがん)が合うこともあります。

そして、ぜひ触れておきたいのが八味地黄丸(はちみじおうがん)です。腎の働きを高める処方として広く知られ、冷えや頻尿、腰や足のだるさといった症状とともに、加齢に伴う目のかすみや視力低下に用いられることがあります。

目薬や休息だけで改善しない不調が続くとき、体全体のバランスを整えるという漢方の考え方は、一つの選択肢になるかもしれません。ただし、体質や症状によって合う処方異なります。専門家に相談しながら取り入れることが大切です。

目の不調は、年齢に関わらず体からのサインになることがあります。目の不調をきっかけに、自分の体と向き合ってみるのも良いのではないのでしょうか。



五行説

自然界のさまざまな変化や関係を木火土金水の五つの要素に分類していく考え方。「五行説」の「行」は、万物のもとになる元素を表しています。



Hiromi Komiyama
小宮 ひろみ

女性総合診療センター センター長
専門分野: 女性ヘルスケア・性差医療

子どもの頃の夢は
バレーボール選手

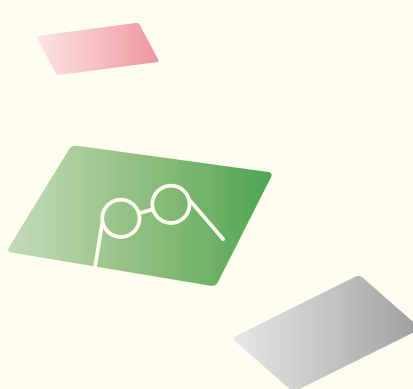
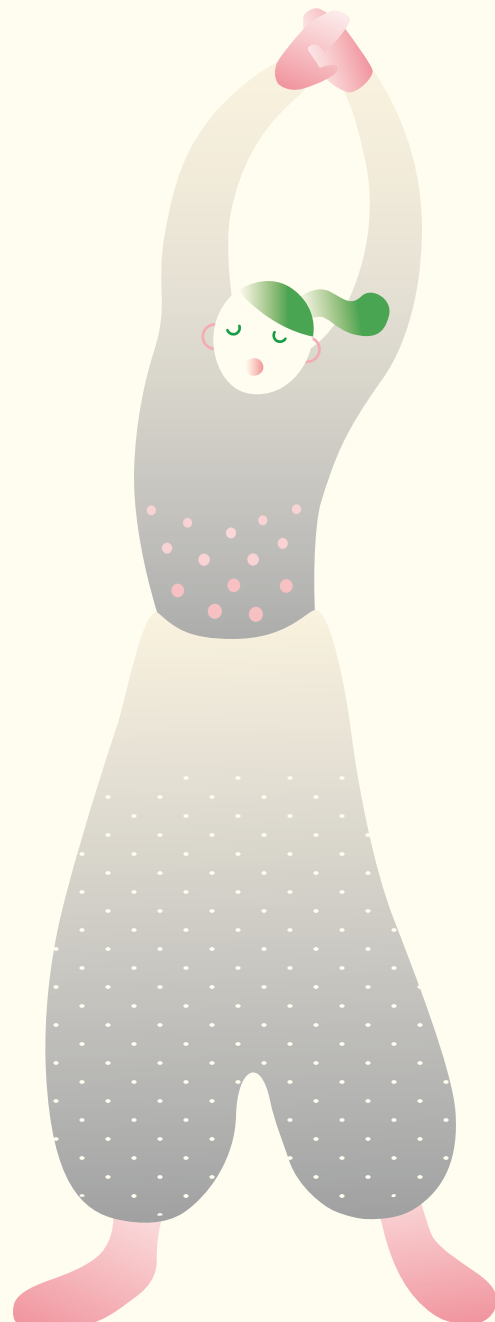


女性外科 婦人科のご案内

良性婦人科疾患、月経困難症などの女性特有の疾患や、原因不明の体調不良が続く方の診療を行います。女性外科に関しては、現在開設に向け準備を進めているところです。外科的手技を必要としない保存的治療が主体となります。

一対象疾患一

子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣のう胞などの良性疾患、月経困難症・月経前症候群(PMS)、更年期障害、慢性疾患を有する思春期患者さんのトランジション(移行期医療)における月経関連症状(無月経、稀発月経あるいは月経困難症など)



子どもの目を支える 臨床研究について

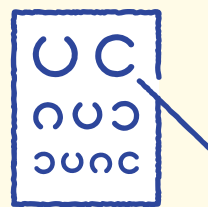
子どもの目は、成長とともに発達していきます。だからこそ、今「見える」だけでなく、将来にわたって「見える力」を守ることが大切です。最近の小児眼科の治験や臨床研究では、近視の進行を抑える点眼薬やコンタクトレンズの開発、弱視を早く見つけるための検査機器や治療用のVR治療機器、AIを搭載したシステムを使った視力回復技術など、子どもにやさしい医療の実現に向けた取り組みが進んでいます。また、生まれつきの目の病気についても、早期診断や新たな治療につながる研究が進められています。

治験・臨床研究は、今診療を受けているお子さんだけでなく、これからの子どもたちの未来を支える大切な取り組みです。日々の診療で得られた気づきをもとに、臨床研究を通じて一歩ずつ課題を整理し、確実に未来へつなげていきます。

Kotone Matsuyama

松山 琴音

臨床研究センター
センター長
子どもの頃の夢：薬剤師



ラストやマンガで制度を解説する「ちょっと教えて！小児慢性特定疾病のための医療費助成制度」(*2)も公開しています。

また、小慢に関する情報をまとめたウェブサイト(*1)を運営しています。医師、自治体担当者、患者さん・ご家族など、それぞれの立場に合わせて必要な情報を整理して発信しています。行政の制度は用語や手続きが複雑になりがちなため、いつでも、掲載のQRコードからご覧ください。



Akinori Moriichi

盛一 享徳

小児慢性特定疾病情報室
室長
子どもの頃の夢：
飛行機のパイロット

さらに、制度の運用を支える基盤として、診断書データの整理・活用にも取り組んでいます。小慢の医療費助成の申請・更新時には、医師が診断書を作成します。年間約10万件が提出されており、これらの診断書に記載された病名、病状、検査所見などを研究に利用できる形でデータベース化しています。子どもの慢性疾患には患者さんの数が少ない病気も多く、こうしたデータは、治療の改善や生活の質の向上に向けた研究につながることで期待されています。

日本には、長期間にわたり治療や支援が必要となる慢性疾患を抱える子どもを支えるため、「小児慢性特定疾病対策(小慢)」という国の制度があります。医療費の助成などを通じて、子どもとご家族の負担軽減を図る制度です。

この制度を支える役割を担っているのが、小児慢性特定疾病情報室です。情報室では、制度に関する情報発信や運用支援を行うとともに、厚生労働省、こども家庭庁、全国の自治体、学会、政策研究チームと連携し、制度改善に向けた調査研究の支援や、子どもの慢性疾患の現状を明らかにする疫学研究に取り組んでいます。



小児慢性特定疾病対策(小慢)に関するウェブページはこちらのQRコードからご覧ください。

*1 小児慢性特定疾病
情報センター



*2 ちょっと教えて！小児慢性特定疾病
のための医療費助成制度



ファンドレイジングとは、組織や団体が活動を続けていくために必要な資金や物品などの支援を募る取り組みのことです。

当センターのファンドレイジング室は、昨年9月に発足し、職員、患者さんやご家族、企業・地域の皆さま、そしてこれまで接点のなかった方々ともつながり、その輪を広げていく部署です。私たちの活動を知り、応援して下さる「ファン」を増やし、共感の輪を広げることで、未来へと続く支援や寄付につなげていくことを目的としています。

昨年のクリスマスには「Amazonほしい物リスト」を活用した物品寄付プロジェクトを、広く社会を巻き込みながら実施しました。また、中庭でのイベントを通じて、地域のスポーツチームや医師会の皆さんとも連携し、支援の機会を広げています。

私たちは当センターと社会をつなぐ架け橋として、これからも皆さんとともに歩み続けるための取り組みを進めていきます。



ウィッシュリストでたくさんの寄贈、ありがとうございました！



患者さんたちに心とらぐひとときを届けようと、研修医の先生方とともに中庭でシャボン玉を飛ばしました。



第1回 クリーンアップキャンペーン
落ち葉でハートをつくりました。



Yumiko Nakajima
中嶋 弓子

ファンドレイジング室 室長
子どもの頃の夢：お花屋さん



左から 海外 佳奈子、松岡 真未、遠藤 陽代

みなさんは「視能訓練士（しのうくんれんし）」という仕事を知っていますか。視能訓練士は、医師や看護師と同じように、国が認めた国家資格の1つで、主に病院やクリニックの眼科で働いています。視能訓練士の仕事は大きく4つに分かれています。

1 視能矯正

どれだけ物がはっきり見えるかを調べる検査（視力検査）をしたり、メガネの度数を合わせたり、斜視（目の位置がずれること）の検査を行います。

2 視能検査

見えている範囲がどれくらいかを調べる検査（視野検査）や、目の中を調べる画像検査を行います。

3 ロービジョンケア

メガネをかけても見えにくい人に、ルーペや単眼鏡など「見えやすくする道具」を紹介します。

4 健診業務

3歳児健診などで視力に異常がないか、早期発見のためのスクリーニング検査を行います。

目はミントマトくらい（直径24mmほど）の小さな臓器ですが、生活の中でもとても大切な役割を持っています。朝起きる、ごはんを食べる、学校へ行く、黒板を見る——どれも「見えること」が関わっています。近視や遠視、乱視などで視力が十分に得られない場合には、メガネで見え方を補います。しかしメガネをかけても十分に見えなければ、日常生活にさまざまな影響が出てしまいます。

私たち視能訓練士は、

- どんなふうに見えにくいのか
- なぜ見えにくくなっているのか
- どうしたら少しでも見えやすくなるのか

これらを、眼科医とともに患者さんやご家族と向き合いながら、一緒に考えていくお仕事です。

Mami Matsuoka
松岡 真未

視能訓練士
子どもの頃の夢：視能訓練士

MASA HAPPY BIRTHDAY!



◆ ホスピタル・ファシリテッドッグ®マサのハンドラーの権守です。当センターに就任し5年が経ち(私のパートナーになってからも5年です)、マサは7歳になりました。皆さんに盛大にお祝いをしていただき、ありがとうございます!

■ 幼少期から、マサは優しく甘えん坊。おっとりとして、時にとってもひょうきんなところは変わりありません。子どもたちとご家族、病院のスタッフの皆さんに愛され、よりマサの良さが発揮されているように思います。病院にも毎日ルンルンで出勤するマサです。これからもマサの健康管理に努め、より多くの方が癒され、笑顔になれるよう頑張っていきたいと思えます。これからもよろしくお願いいたします!



マサ、7歳のお誕生日おめでとう!

看護部からのメッセージ

Message

マサの戌の日訪問、妊婦さんから"癒される"と、とても好評です。マサの訪問をみんな楽しみにしているよ。いつもありがとう。

患者さんだけでなく、スタッフ一同元気をもらっています

マサは当センターの大切な仲間です

マサの鼻息パワーで、これからもみんなを笑顔にしてね!

\ THANK YOU! /



新任のご挨拶



国立成育医療研究センター
副院長・看護部長

Hiroko Yorozu
萬 弘子

子どもの頃の夢：
どこでもドアで色んなところに行ってみたい

新緑がまぶしい新たな門出の季節に、責任ある職を拝命し、身の引き締まる思いです。私たちの使命は、患者さんに寄り添い、温かな看護を提供することです。そのためには、職員一人一人が心身ともに健やかに働ける環境が欠かせません。私は、職員の「ウェルビーイング（心身の健康と幸福）」の向上を重要な経営課題の一つと位置づけ、働きやすい職場環境の整備や心身の健康支援、人材育成に継続的に取り組んでまいります。職員が安心して専門性を発揮することが、患者さんにとって安全で質の高い医療につながると考えています。春風のように爽やかな職場づくりに努めてまいりますので、どうぞよろしく申し上げます。



国立成育医療研究センター
研究所 所長

Maki Fukami
深見 真紀

子どもの頃の夢：
土星に行って、内側から土星の輪を眺めること

2026年4月1日に研究所長を拝命いたしました。微力ですが国立成育医療研究センター研究所の発展のために全力で取り組んでまいります。私は2003年から当研究所で研究活動をさせていただいています。この研究所では、多彩なバックグラウンドを持つ研究者たちが集まり、切磋琢磨しながら最先端の医学研究を推進しています。この研究所の最大の特色は、当センターの病院・女性の健康総合センター・事務部門と一丸となって、子どもと女性の健康に関するさまざまな課題の解決を目指している点です。皆さまのご指導、ご支援を賜れば幸いです。どうぞよろしく申し上げます。



臓器移植 1,000例の歩み

2005年に初の肝移植を実施して以来、当センターは小児移植医療に取り組み、2011年には臓器移植センターを設立しました。多職種が力を合わせ、これまでに累計1,000例の臓器移植を達成しました。世界的にも稀なこの節目を迎えられたのは、日々支えてくださる多くの方々のおかげです。

当センターでは、小児に対する臓器移植を年間約60件実施しています。この背景には、医師・看護師・コーディネーターなど多職種が連携した体制と、長年にわたり患者さんご家族を支え続けてきた医療の積み重ねがあります。

3月18日には講堂で記念式典を開催し、医療従事者や関係者約80名が参加しました。来賓からの祝辞に加え、当センターで移植を受けた患者さんやご家族から温かなお言葉が寄せられ、会場は和やかな雰囲気に包まれました。

これまでの歩みを振り返るとともに、これからも一人一人に寄り添いながら、小児移植医療のさらなる発展に取り組んでいきます。



病院長 笠原 群生より

1,000例はゴールではなく、新たな責任の始まりです。これからも子どもご家族の未来のために、安全で質の高い移植医療を社会と共に築いてまいります。

成育



村上隆氏作品「真心を君に」を展示しています

このたび、一般の方から現代美術家・村上隆氏の作品「真心を君に」をご寄付いただきました。作品は、1階ロビーの総合案内から西正面玄関へ向かう通路の入口上部に展示しています。色彩豊かで印象的な花のモチーフが特徴の作品です。通路を行き来する中で、ふと視線を上げたときに目に入る位置にあり、寄付者の「お子さまご家族、医療従事者の皆さまに楽しんでいただきたい」との思いが込められています。当センターにお越しの際は、通路入口の上部にもぜひご注目ください。

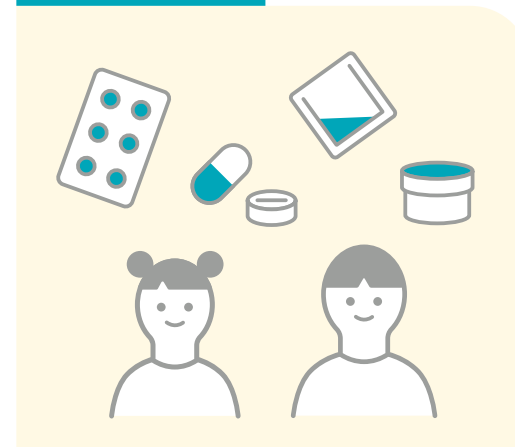
成育



日本スポーツ振興センターと包括連携協定を結びました

国立成育医療研究センターと日本スポーツ振興センター（JSC）は、学校における事故防止や成育医療・女性の健康、スポーツ医・科学研究の発展と人材育成を目的に包括連携協定を結び、その調印式が3月4日に行われました。両組織において研究交流や人材育成・人事交流を推進することで、スポーツ医・科学と成育医療の知見を融合し、研究および支援体制の強化を通じてスポーツ・成育医療の更なる発展に寄与していきます。

小児がんセンター



こどものがん治療薬 開発シンポジウム 開催報告

1月31日、医薬品医療機器総合機構（PMDA）、日本小児血液・がん学会、国立成育医療研究センター、国立がん研究センター、日本製薬工業協会、欧州製薬団体連合会、米国研究製薬工業協会の共催により、当センターで『こどものがん治療薬開発シンポジウム：明日の治療を創る～小児がん治療薬開発の挑戦～』を開催しました。産官学それぞれの立場で、海外で使える薬が国内では使えない、開発自体が進まないドラッグラグ・ドラッグロス問題について、活発な意見交換が行われました。

教育研修センター



小児科専門研修プログラム説明会 開催のお知らせ

5月9日（土）、医学生および初期研修医1、2年目の皆さんを対象に、当センターの「小児科専門研修プログラム」の説明会を開催します。専攻や研修先選びに迷っている方はもちろん、成育がどのような病院が詳しく知りたいという方も大歓迎です。当日はプログラムの概要や病院紹介に加え、現役の専攻医によるQ&Aセッションも予定しています。現場のリアルな声を直接聞ける貴重な機会ですので、ぜひお気軽にご参加ください。お申し込みは、こちらのQRコードより受け付けています。



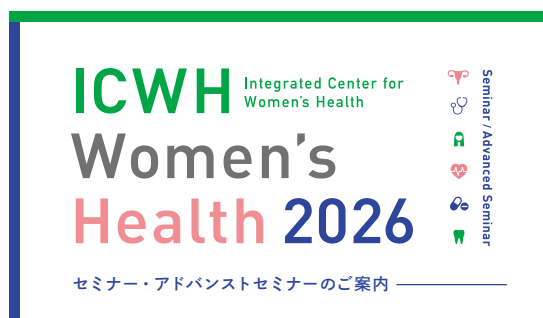
ご意見・ご感想

『成育だより』へのご意見・ご感想、また取り上げてほしいテーマがありましたら、QRコードからぜひお気軽にお送りください。

広報誌「成育だより」最新号に関するアンケート



女性の健康総合センター



2026年度「Women's Healthセミナー」「Women's Healthアドバンスセミナー」のお知らせ

女性の健康総合センター（ICWH）では、女性の健康に関する最新の知見や臨床・研究の視点を共有するため、定期セミナーをオンライン開催しています。偶数月は一般の方でも気軽に参加できる「Women's Healthセミナー」、奇数月はより専門的な内容を扱う「Women's Healthアドバンスセミナー」を開催します。その他、不定期に特別講演の開催を予定しています。参加は事前申込制です。詳細はQRコードからご覧ください。



面白い顔をしてみる。自分が笑う。相手が笑う。
それは単なるコミュニケーションではなく、
癒し癒される表現の源だと思う。

表紙の絵について

当センターでは、さまざまな個性を持った方々との共生を目指して、表紙イラストに障がいのあるアーティストのイラストを採用しています。思わずクスッと笑ってしまう作品、目を見張るような作品など、魅力あふれる作品をご紹介します。2026春号は、エイブルアート・カンパニー所属、ウルシマ トモコさんの作品です。

描いた人：
**ウルシマ
トモコ**
作品名：「顔」



アイノカタチ基金

ご寄付について

子どもたちの命を守るための医療機器の整備や、療養環境の改善のためにご寄付をいただくとありがたく存じます。当センターへの寄付は税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。詳細はHPをご覧ください。



<https://www.ncchd.go.jp/donation/>



国立成育医療研究センター お問い合わせ

医療関係者の方

医療連携室

直通 03-5494-5486 (月～金8:30-16:30)

救急センター

代表 03-3416-0181 (24h受付)

NICU

母体搬送

PICU

代表 03-5494-7120 (内線7070) (24h受付)

患者さん・ご家族

予約センター

病院 03-5494-7300 (月～金9:00-17:00)

産科 03-5494-8141 (月～金9:00-17:00)



国立研究開発法人

国立成育医療研究センター

National Center for Child Health and Development